

## 「大切な水」

みなさんは、「水」と聞くと、どのようなイメージが湧いてきますか。広い海や、清く水が流れる川、雨、水道の水など、透明で、きらきらと輝いているイメージが最初に思い浮かんだのではないのでしょうか。

でも、そういった透き通った水、純粋な水が、だんだんと、経済などの発展と共に、濁っていき、様々なものが混じった汚染水が、流れていることがあります。これは、いけないことだ、と言われてますが、どうしていけないのでしょうか。

まず、今は昔と比べて、日本は経済が発展し、汚染水が出てしまう量は少なくなはありません。しかし、私たちが普通に生活できていることを思えば、汚染水の影響をあまり受けていないように感じ、少しぐらい大丈夫、そう思ってしまうがちなのです。しかし、その

大和高田市立高田西中学校 二年

新穂 莉子

少しぐらいが重なり、日本人、およそ一億三千万人が、毎日それを続けると、とんでもないことになります。人が生活するうえで、汚染水は出てしまいますが、水をたくさん使ってしまうことによって、さらに汚染水が増えてしまいます。その結果、汚染水が川や海へ流れ、森の土がよごれ、海や川の中に住んでいる生物が死んでしまい、また、人の体に悪影響を及ぼす物質を食べた魚を、人が食べることによって、結局人々が苦しむことにもつながります。こういったことは、過去に日本でも起こっていて、四大公害病の中に含まれる、水俣病や、イタイ病といった病気が発生しました。

日本では、浄水という技術があります。汚染水を、きれいにしてから川や海へ流したり、（だからといって、水をむだ遣いして汚染水

を、増やして良いというわけではありませんが、川の水をきれいにして、消毒して私たちが飲めるようにすることができません。これには、お金がかかりますが、私たちが水を大切に使うことによって、この手間が少しでも改善すれば、かかるお金も、減らすことができ、その分を学校を建てたり、交通道路の整備、福祉施設の建設など、他のことにまわせると思います。つまり、水を大切にして、汚染水を減らしていけば、たくさん命を守ることにもつながり、自分自身を守ることにもつながると、いうことです。(また、良いことをすると、必ず良いことが自分にも返ってくることも、このことから分かります。)

水を大切にするといいっても、どうすればいいのか、ということを考えてはいけません。一つ目は、水をむだ遣いしないこと。例えば、使わない時は、水を止めるなど。二つ目は、水をできるだけ汚さないこと。例えば、フライパンについた油は、ふきとってから洗ったり、洗剤を使いすぎないなど。そして、森林を守ること。例えば、ノートを買う時は、再生紙を使った紙のものを買うこと、森林に

ゴミを捨てないなど。森林の木々の根や、土に水がこしとられ、新鮮な空気の中を流れる水は、きれいで美しい。

日本は、水に恵まれているため、あまり実感湧きませんが、地球上にある水のうち、私たちが使える水は、「一パーセント」に満たないのです。なので、私たちは毎日飲んでいる、おいしい水に感謝し、決してそまつにしてはいけないと思います。そして、水がなくは、生命は誕生していなかったと思います。私たちの体は、大人の男性で体重の約六十パーセント、大人の女性で体重の約半分、赤ちゃんは体重の約七十五パーセントが、水で、できています。そして、条件にもよりますが、人は、水分を全くとらなければ約一週間で死んでしまうのです。つまり、私たちは、飲める水がないと、必ず生きていきません。水に恵まれていることに感謝の気持ちを持ち、みんなが小さな工夫を重ねることによって、命、そして水を守っていく必要があります。